

くらしのすまいりんぐ

地球と人に優しい家づくり・くらしづくりの情報広場

2024年10月吉日発行
NO.0123
発行責任者：(有)文化舎東毛
〒376-0101
みどり市大間々町大間々1190-4
☎0277-73-4850

<今月の話>

1. 今月の話題 — ゼロウェイストへの一歩をはじめよう —
2. 重ね煮 — 秋の重ね煮味噌汁 —
3. ほったらかし農園 — 菌ちゃん農法との出会い —
4. 不動産情報 — 期間限定セール実施中 —
5. 秋の風習 — 十三夜 —
6. 建築知識 — 福井地震と建築基準法 —
7. 辛口コラム — 南海トラフ地震 30年以内 80%の嘘 —



今月の話題

—ゼロウェイストへの一歩をはじめよう—

家庭からゴミを出さない「ゼロウェイスト（ごみゼロ）」な暮らしが徐々に広まる中、量り売りのスーパーとして2021年京都にオープンした「斗々屋（ととや）」は、日本初のゼロウェイストなスーパーマーケットとして注目を集めています。斗々屋では、ゼロウェイストで最も問題になる商品のプラスチック包装を排除し、乾物や液体をはじめ、野菜、果物、お豆腐、お肉、お惣菜などの生鮮食品も個包装なしで販売しています。お客様はマイ容器を持参するか、デポジット制の貸出容器を利用して買い物します。これにより、家庭ごみの約半分を占める包装ごみを大幅に削減することができます。

斗々屋はその後2023年に東京代官山にもオープンしました。そして今後3年間で120店舗のゼロウェイストショップのオープンを目指しているそうです。こんな取り組みが全国に広がるといいですね。



さて、話はガラッと変わりますが、ゼロウェイストに関する本を紹介します。ぜひ、読書の秋に手に取っててくださいね。

①『ゼロ・ウェイスト・ホーム』(アノニマ・スタジオ)

1年間の家族4人分のゴミの量を1Lにまで減らした経験がまとめられています。

②『サステナブルに家を建てる』(アノニマ・スタジオ)

『ゼロ・ウェイスト・ホーム』『プラスチック・フリー生活』(NHK出版)、『ギフトエコノミー～買わない暮らしのつくりかた』(青土社)などを翻訳した服部雄一郎さんの家づくりの記録。未来の社会に住み継がれる“100年住宅”を目指し、これからの住まいを考える人に参考にしてほしい一冊です。服部雄一郎さんがゼロウェイストに挑戦する様子は右のQRコードからレポートが読めますよ。



③『暮らしは楽しくエシカルに。』(時事通信出版社)

Instagramでエシカルな生活を発信しているRIRIKOさん。ゆるっと無理のない範囲で取り組める地球にやさしい暮らしを紹介しています。

ぜひ、読書の秋に手に取っててくださいね。



重ね煮

— 秋の重ね煮味噌汁 —



重ね煮のお味噌汁は体調を整え、暑さで消耗した体力を回復させる力があります。昼は暑いのに夜は秋の気候で体調を崩しやすい今におススメです。

味噌	60g
油揚げ	1/2枚
ごぼう	20g・・・ささがき
人参	25g・・・いちょう切り
たまねぎ	60g・・・うす切り
さつまいも	80g・・・半月切り
きのこ	60g・・・ほぐす

水 3カップ
ねぎ 1本・・・小口切

重ね煮アカデミー主宰
<https://megu-kasaneni.com/>

なんとなくスッキリしないという方、ぜひ作ってみてくださいね。温かいものは安心します。

1. 鍋に図のように材料を重ね、材料の7分目まで分量内の水を入れて、フタをして火にかける。
2. 沸騰したら弱火にし、材料がやわらかくなるまで煮る。
3. 残りの水を加えて味をととのえ、ねぎを加えて一煮立ちさせる。

ほったらかし農園

— 菌ちゃん農法との出会い —

8月の初めに「菌ちゃん農法」の吉田俊道さんの生講習を受けてきました。吉田さんは化学肥料も使わず、微生物の力だけで元気な野菜を作っている農家さんです。畑の野菜に虫がついて食べてしまうのは、その野菜が元気で美味しいからではなく、元気がないから食べるという話でした。ニュースなどでご覧になった方もいるのではないのでしょうか。

植物…光と水と二酸化炭素で光合成を行い生命活動の元になる有機物を **生産者**
 人間…その命を頂く **消費者**
 畑の虫や菌…生産者や消費者の死んだ生命体を食べて土に返す **分解者**

虫たちは健康で元気な野菜よりも不健康な野菜の方が分解しやすいのでそれを食べます。戦時中、やけどや潰瘍のような重篤な傷にウジ虫が湧いても、清潔な傷口よりも治りが早かったという臨床事実があります。(ナショナルジオグラフィックより) 腐敗しているところを分解しつくすとそれ以上分解できるところがなくなるためです。



では虫が食べたがらない元気野菜はどんなものか？その答えが微生物の「菌ちゃん」です。「図解でよくわかる菌ちゃん農法」をご覧ください。

奥が深いけれど、誰でもすぐに始められるのが、菌ちゃん農法の野菜作り。

私も只今、菌ちゃんが活躍できる土を作っています。私は、刈った草を集めて

黒マルチをかけ、ここに空気穴をあけます。これからは菌ちゃんが私のほったらかし農園の野菜を元気にしてくれるでしょう。





不動産情報

※期間限定価格!! セール実施中
※SUUMO・athome・HPにも掲載しております。ぜひご覧ください。

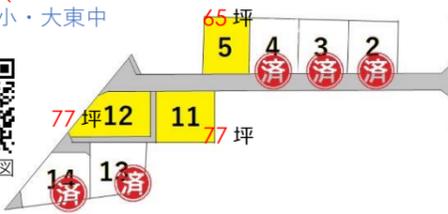
大間々町大間々

700

価格: ~~781~~ 万円~
学区 大東小・大東中



現地案内図



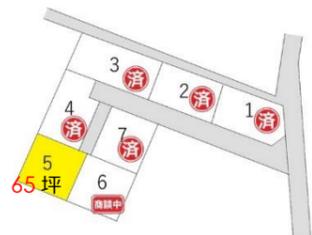
大間々町大間々

500

価格: ~~780~~ 万円~
学区 大東小・大東中



現地案内図



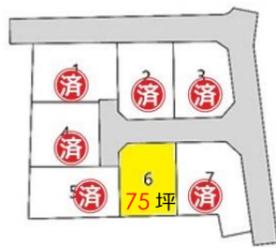
大間々町桐原

500

価格: ~~600~~ 万円~
学区 大南小・大中



現地案内図



新里町武井

600

価格: ~~880~~ 万円~
学区 中央小・新里中



現地案内図



詳しくは『旬文化舎東毛』までお問い合わせください。

☎ 0277-73-4850 ✉ info@bunkasya-toumou.co.jp

秋の風習

～十三夜 (2024年は10月15日)～



十五夜 「中秋の名月」とも呼ばれ、おいしい月見団子を食べながら、秋の満月を鑑賞する

十三夜 稲作の収穫を終える地域も多いことから、秋の収穫に感謝しながら美しい月を愛でる

十五夜は中国伝来の風習であるのに対し、十三夜は日本で始まった風習です。

由来は??

十三夜のお月見の起源については、諸説あります。中でも、平安時代に醍醐天皇が月見の宴を催し、詩歌を楽しんだのが始まりではないかという説が代表的です。また、平安時代後期の書物に「明月の宴」が催されたことが記され、宇多天皇が「今夜の名月は並ぶものがないほど優れている」という意味の詩を詠んだとの記述もあり、風習として親しまれていたことがわかります。

西行「山家集」には、十三夜を詠ったものが3首あります。ここでは和歌を1首ご紹介します。

※山家集とは…平安末期の歌僧・西行法師の歌集。歌数は約1560首だが、増補本では300首余が加わる。

“ 雲きえし 秋のなかばの 空よりも 雲のない空に浮かぶ中秋の名月よりも、
月は今宵ぞ 名におへりける ” 今宵九月十三夜の空にあおぐ月の方が名月にふさわしい。

建築知識

福井地震と建築基準法

敗戦前後は戦災に加え前回の東南海地震、三河地震、更に46年の南海地震とさんざん痛めつけられた時期。45年7月の空襲で市街地の9割が消失し、食料・資材の不足で復興まならない48年にM7.1の福井地震で市はほぼ壊滅状態。死者は3,700人を超えました。気象庁はこの地震の結果、それまで震度6の上の階級、震度7を加えました。調査の結果、福井平野の直下を30kmにわたって南北に走ったズレ破壊だったことが判明。大きなズレでしたが地表に断層が現れず、既存の活断層との関係が見つかりませんでした。内陸型大地震のすべてが既知の活断層によるものではないという認識が必要なが分かりました。この認識は原子力発電所立地にも活かされるべきです。この地震を受けて1920年から続いてきた市街地建築物法に代わって1950年に建築基準法が施行され、この中で「壁量の規定」が定められました。日本の家は垂直な柱と水平な梁や桁で構成されますが、この構造は地震で水平に揺されると容易に平行四辺形になってつぶれるので筋交いでこれを防ぎます。

壁量の規定により、筋交いを適切な量・位置に設置することが求められます。壁量計算自体はここで解説しませんが、屋根が軽い建物の場合には1階12、2階8以上(屋根壁の重い建物では1階16、2階24以上)と規定されました。重い建物とは瓦葺きや土壁の住宅です。基礎の規定はありません。



福井市大和百貨店 日本地震学会広報誌

辛口コラム

南海トラフ地震 30年以内80%の嘘

8月8日に宮崎県で起きたM7.1の地震により、大地震への注意を呼びかける臨時情報が出され1週間、NHKは画面警告し、今後30年の大地震の確率を80%と言い続けました。天災に備えを怠らないのは大切ですが、ゆっくり動く地球の動きを1週間や30年で予測なんてあり得ません。特にNHKが言う南海トラフの80%は全国各地の危険度予測と全く異なった基準で出されており、地震学者の殆どが「信頼できない」「水増し」と考えている事が中日新聞記者の調査で判明。小澤記者は22年科学ジャーナリスト賞、翌年菊池寛賞を受賞しました。南海トラフ地震だけが他の地域とは異なった推定根拠で計算され、同じ基準で計算すれば20%切り。

それも発表すべきだとの地震学者達の意見は、毎年百億円の予算を受ける防災学者や官僚につぶされたと言います。この計算は高知県室津港の地震による隆起とその後の回復沈下から求めます。ところが深堀調査の結果、同港は昔から隆起のたびに海底を掘り下げていると言います。それでは自然の沈下ではない。とんでもないでっち上げですが、NHKは事実として報道する。私は「まあそれでいいよ」と正論を貫かない地震学者達の保身も罪深いと思いますが、国民に嘘をつくNHKは大戦時の大本営発表に被ります。天災に備えを勧める為なら嘘も許されるのか?世界中の学者が言うように地震予知は不可能なのです。“東京新聞 南海トラフ”で検索。

